

第253回「ゲンパツいややん行動」

原発で家族がバラバラ

怒りの相馬盆唄が駅ロータリーに

7月28日、第253回「ゲンパツいややん」金曜日行動が京阪寝屋川市駅前で行われ10名が参加しました。

「21日に福島第一原発3号機のメルトダウンした原子炉格納容器に調査ロボットが入り、カメラが溶け落ちた核燃料をとらえました。6年4ヶ月経ってやっと状況がつかめただけで、これからの廃炉作業が可能なのかすら未知数で不安は深まるばかりです。チェルノブイリ原発事故は31年経っても鉄とコンクリートで覆うだけで、廃炉作業には至っていません。福島第一原発の事故は



収束もコントロールもされていません。安全でも、安くもない原発は今すぐ廃

炉にしましょう、電気は自然エネルギーに切り換えましょう、福島を忘れてはなりません、子どもや孫が安心して暮らせる日本をつくるために声を上げましょう」と次々に訴えました。福島県出身の参加者が「福島は多くの家族がバラバラになりました、農業も酪農も深刻な事態が続いています、自然災害はどうすることもできないが、人間がつくった原発はやめることができます、



す、原発は許してはいけない」と訴え、怒りの相馬盆唄が披露されました。「生業訴訟署名」への協力と「3・11甲状腺がん子ども基金」へのカンパも寄せられました。